

2022年度 事業報告書 (4/1~3/31)

法人の名称 特定非営利活動法人 木々の会

1. 事業の成果

(1) 概要

① 「新型コロナ」の大変な状況をどうにか乗り切ることができた

各事業所では、消毒やメンバーの体調把握、果ては手に入りにくい抗原検査キット手配等、スタッフの多忙さは枚挙にいとまなく、身近な人の感染で動揺するメンバーへの対応なども含め、手薄になりやすい現場であったが、スタッフ等が応援態勢を組みつつ乗り切ることができた。

一方、改めて多くのスタッフから指摘されたのは「パートナーの存在」である。普段はランチ作りや他の活動をメンバーと一緒にこなすことが多いが、コロナ禍で緊張が続く中で地域のパートナーがそこに一緒にいることがスタッフの緊張をもやわらげ、時には相談できる心強い存在でもあった。

② 「むくどりの家」が40周年を迎えた

「自宅と病院以外、行く場所を持たない当事者に昼の居場所を」とのご家族の熱心な願いから、横浜でも最も初期に誕生した「地域作業所むくどりの家」。初代のスタッフが、数十軒の不動産屋を廻りようやく貸してもらえた古い民家。それが「むくどりの家」のスタートだった。それから40年、歴代のスタッフの熱意と、個性豊かなメンバーとの協同。パートナーやご近所の方々をも巻き込みながら、今では地域でもなくてはならない存在となっている。

秋の「むくどりの家40周年記念イベント」には見事な手織が展示され、北海道からは40周年にちなみ40個の「かぼちゃ」が届いたり、またパートナーのおひとりは、お好きな椋鳥を一年かけて見事な木彫りに仕上げられた力作をくださったりと「40周年」に花を添えてくださった。

「むくどりの家」が40年、「木楽舎」そして「木々の会」も設立30年弱を経過し、「変化」「変革」の時期を迎えている。2軒目のグループホームも開設に向かうなど活動が多岐にわたる今、「木々の会」の原点、理念は何かを改めて考え、共有することが必要である。

(2) 活動・事業について

① 新グループホーム開設を目指して物件探しと交渉を継続的に進めた。具体的な物件も挙がったが諸事情により折り合わず、開設は次年度に持ち越した。

② ホームページのリニューアルに取り組んだ。「外」へと目を向け、何を伝えていきたいかを話し合う中で私たちが大事にしていることが明確になる機会でもあった。

(3) 運営について

① 事務局・各事業所が連携し、前年度導入した会計システムの全面運用に力を注いだ。

② 今後の事務局整備の方針を検討・決定し、次年度より具体的な実施を進めることとした。

③ 産育休代替職員の雇用が難しかったこと等により職員の変動が多かった。

④ 職員の就業条件について要望・意見を取りまとめ、就業規則及び給与規定を改定した。

⑤ 当事者（メンバー）の法人運営への参加を進めるため、理事会オブザーバー参加を継続した。

2. 事業内容

2-1) 障害福祉サービスに関する事業

(1) 事業全体の総括

① 地域活動支援センター、グループホームのスタッフが共に日常的に連携をとりながら業務を行っ

た。毎月開催の合同スタッフミーティングでも情報共有を行い、連携の強化を図った。むくどりの家の職員体制が厳しかった際には、事業所の垣根を越えて応援体制を組むことができた。

② 2022年度より義務化となった人権擁護・虐待防止委員会を開催。今後の方針等を確認した。

(2) 地域活動支援センター運営についての総括

① 新型コロナウイルス感染症の動向を注視し、安心して通所できる環境作りに尽力した。年間を通して混乱なく活動を継続する事ができた。

② 障害者支援センターへの補助金交付事務移管についての説明会に積極的に参加し、疑問に思う事案に関しては障害者支援センターにも問い合わせを行い、情報を共有した。

2-1-1) 地域活動支援センター「木楽舎」の運営

【内容】

(1) 1年の総括

① 今年も新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら活動する一年だった。感染者が増加した時期は所内でも陽性者が確認されたが、職員やパートナー、メンバーの協力もあり感染拡大には至らなかった。一方、身近な人の感染で動揺したり、自身の体調を不安視するメンバーも多かった。

② 作業内外を問わず、新しいメンバーの活躍する場面が増えてきた。メンバーが自ら声をかける等、それぞれが活動の場を支えている。

③ 在籍が長いメンバーが高齢により退所する等、長年場を支えてきたメンバーの利用の仕方にも変化が見え始めている。中堅メンバーも含め各々が抱えているニーズも複雑化してきている。

④ 自主製品は菓子製造での売行が好調である。バザー等も数年ぶりに再開し、地域の活動に参加する機会も増えてきている。物価高騰の影響を受け数年ぶりに価格改定を行ったが、お客様を大切に思うメンバー達の気持ちも届き、客足が減少しなかった。厨房内にエアコンの導入する等、作業環境づくりも行った。

⑤ 外出する機会が限られる中、木楽舎の内部でできるレクを多く実施した。時には想定以上に多くの参加者が集まり、新型コロナウイルスで行動が制限されているメンバーの期待値の大きさが感じ取れた。一方で長期休みのレクリエーションや外出する機会を期待する声も多い。

⑥ 入所者3名。退所者1名。

(2) 作業及び活動プログラム（行事、研修・見学受け入れを含む）

① 働く

a. 喫茶・「ゆいまーる」水・木・金曜に営業 134日 ・クリスマスフェア 店当番

・出張喫茶（老人施設） コロナ感染症の拡大防止の為中止。

・畠山重忠ゆかりの地物産展 ・二俣川駅販売会

b. 毎日の昼食作り

② 楽しむ 感染予防を行いながら実施

・持ち寄り夕食会 ・お寿司の会 ・お寿司&ビンゴ大会 ・クリスマスランチ

・少し早い年越しそば(12/28) ・有志でいくロイヤルホスト

③ 会活動との連携

・工賃、展示、みんなの会の各チーム、木々の会便り編集委員会、HP委員会

・みんなの会 ・事務局会 ・クリスマスフェア ・木々の会研修

④ 旭区内の活動を担い、交流する

- ・ふれあいスポーツ大会(ボッチャ企画準備) ・旭区保健福祉セミナー(オンライン開催)
 - ・あっぱれフェスタ ・旭区精神連絡会 ・旭区喫茶、製菓グループ
- ⑤ 啓発活動 メンバーとスタッフで精神障害、病気、木楽舎の活動について説明する。
- ・研修生・関係団体職員等 2組 ・大学生ボランティア受入 ・大学生 卒論調査協力
 - ・見学(木楽舎を知りたい、入所したいという見学者) 9組 14名

⑥ 個々のニーズに応じて

- a. 木楽舎内の相談援助 面談、電話相談、スマホ関連、金銭(家計簿含む)、生活ノート
- b. 同行による支援 通院、携帯店舗、引越手伝、区分認定調査協力、ハローワーク同行、
模擬面接協力、職場面談、家族の葬儀参列、メンバー家族顔合わせ同席
- c. その他 ・ケア会議 13回 ・計画相談 会議 13回 電話 随時

(3) 運営連絡会開催状況

- ① 6月20日(月) 令和3年度事業/決算報告、上半期計画 (11名)
- ② 10月25日(火) 上半期活動報告、下半期計画、インフォメーション (11名)
- ③ 3月20日(月) 下半期報告、令和5年度計画/予算 (12名)

【日時】	通年(開所日数 233日)
【場所】	横浜市旭区鶴ヶ峰2-9-9 第2大幸ビル301
【従事者人員】	常勤3人、非常勤1人
【受益対象者】	利用登録者30人(2022年4月)⇒32人(2023年3月) 精神障害者 パートナー登録者を含む地域住民多数が参画
【支出額】	25,769,322円

2-1-2) 地域活動支援センター「むくどりの家」の運営

【内容】

(1) 1年の総括

- ① むくどりの家は、開設40周年を迎えた。コロナウイルスの感染対策に努めながら、『40周年記念イベント』をみんなで計画した。10月に『文具の原画、イラスト展示会』(ゆいまーるにて)、11月には『記念販売会』(むくどりの家にて)を開催した。どちらも多くの方に足を運んで頂き、改めていろいろな方との繋がりや支えられていると感じ、この場を知って頂く機会にもなった。
- ② むくどりの家のシンボリックな役割を担って来た『ミニショップ』の建物が築25年経過し、老朽化による危険(破損等)の心配が出て来た為に、解体撤去作業を行った。撤去後のスペースに菜園やベンチ等が出来て、屋外スペースと静養スペース(FHS)を一体化し有効活用することで、居場所が増えた。今後、ミニショップ本来の目的であった「地域交流」に向けて、新たなカタチでの外との接点になっていくことも期待したい。
- ③ 年度途中で常勤職員が産休・育休に入り、スタッフ体制が変わった。非常勤職員(短期含む)の雇用や法人内の職員の応援もあり乗り切ることが出来た。

(2) 作業及び活動プログラム

- ① 手織/先生の来所日は縫製作業も入り活気があるが日々織り手は減少。40周年イベント等で販売した。文具/積極的に絵を描く人が増え、メンバー考案イラスト入りノートやメモ帳等の製品作りに挑戦した。

- ② ランチ作り/パートナーと一緒に作ることでメニューも広がり安心して入れる人も。感染予防に努めた。
- ③ 畑/プランター栽培になり、品種が限定されたが育てる喜びがあった。新菜園も活用していく。
- ④ 季節の食品づくり/コロナ渦ではあるが協力しあい、15kg分の味噌仕込みを行った。
- ⑤ 印刷/印刷に携わる人が減っているが、法人内等の印刷物の受注を受けた。
- ⑥ メンバーミーティング：計25回、各活動ミーティング：随時、ネパールミーティング：1回
- ⑦ スポーツ/ボッチャ大会(6月・準優勝)、卓球大会(10月)。感染対策で半日だったが楽しめた。
- ⑧ 場を支える活動/会計(工賃計算・ランチ会計)、清掃・整理等
- ⑨ 生活支援/家庭訪問、通院付き添い、生活相談(電話を含む)
- ⑩ その他/竹細工、演劇ワークショップ、音楽療法、ボディーワーク、光輝、ヨガ、福寿荘カフェボランティア、音楽サークル、鳥の絵ワークショップ(40周年)DVD鑑賞、墨あそび等

(3) 行事

- ① 40周年記念行事/『文具の原画、イラスト展示会(ゆいまーる)』、『記念販売会(むくどりの家)』
- ② 研修(メンバー含む)/『木々の会研修(不安の正体)』、『職員自主研修』、『虐待防止研修(オンライン開催)』、『アクション研修(オンライン開催)』、『健康的ダイエット基本のキ』、事業所見学(かぶかぶ)、展示会見学(希望が丘/反町)
- ③ 日帰りレク/『オーガスタミルクファーム』
- ④ 地域交流行事/クリスマスフェア(ゆいまーる)、あっぱれフェスタ(マルシェ等)、旭区精神保健福祉セミナー(オンライン開催)
- ⑤ その他/避難訓練・防災ミーティング、地域防災拠点運営訓練/応急手当訓練、開設運営訓練

(4) 研修・見学受け入れ 計11回 20名

当事者、家族、パートナー、地域住民、関係機関職員、実習生関係(学生・教員)等

(5) 運営連絡会開催状況

- ① 6月3日(金) 令和3年度事業/決算報告、上半期計画 (15名)
- ② 10月28日(金) 上半期報告、下半期計画、40周年記念イベントについて (15名)
- ③ 3月17日(金) 下半期報告、令和5年度事業計画/予算について (15名)

【日時】	通年(開所日数232日)
【場所】	横浜市旭区白根2-25-39
【従事者人員】	常勤3人、非常勤4人
【受益対象者】	利用登録者27人(2022年4月)⇒29人(2023年3月) 精神障害者 パートナー登録者を含む地域住民多数が参画
【支出額】	22,072,637円

2-1-3) 共同生活援助(グループホーム)「メゾンあかしゅ」

【内容】

(1) 1年の総括

- ① 4月から新入居者を迎え、少しずつ他の入居者や他の入居者と関係性を作っている。
- ② ペット飼育可能なメゾンあかしゅで、入居者1名が長い準備期間を経て猫を飼い始めた。
- ③ 昨年に引き続き、川井地域ケアプラザ文化祭に入居者1名が絵画を出展した。川井地域の連合町内会長が障害施設の展示ブースについて、「災害時の要援護者の認識を地域に深めるために

もこういう活動は意義がある」と発言されたと聞き、改めて地域交流の重要性を感じた。

- ④ 初めて看護実習生を4回にわたって受け入れた。その際には有志の入居者達が居室の案内や話をするなど積極的に協力をしてくれた。
- ⑤ 自然災害BCPを基に防災ミーティングと避難訓練を実施した。

(2) 生活支援

- ① 入居者の支援については、相談支援員や訪問看護師や日中活動事業所職員らと相談しながら多角的な視野を持つことを心掛けている。
- ② 祝日や長期休暇を中心に食事会を開催している。アルバイト世話人は月1回から年2回くらいの様々な頻度で勤務している。(5人、のべ28回)
- ③ 月に一回開催されているお茶会(11回)では雑談の他に皆と共有したい生活の困りごともし話合う場になっている。

(3) 地域交流

- ① 開設後、初めて町内会防災訓練が実施され入居者有志と参加した。12/11
- ② 川井地域ケアプラザ文化祭に入居者1名が作品出展。3/11~12
- ③ コロナ禍で限られていた地域交流だが、少しずつ再開された一年だった。

(4) 委員会・会議

- ① 運営連絡会は開設以降初めて3回とも対面での開催。6/30、11/15、2/28
- ② グループホーム内職員会議 5/18、8/23、1/18、2/16、3/15
- ③ 人権擁護・虐待防止委員会(法人内) 1/24
- ④ 外部会議 旭区自立支援協議会実務者定例会 4/20、7/20、10/19、1/18
市精連居宅部会 1/10 旭区精神GHミーティング 5/31、8/30、11/29)

(5) 職員態勢

- ① 開設後初めての職員の異動があり、1名が別事業所へ異動し、新しい職員が2名加わった。
- ② 入居者対応や運営面の支援など、日常的に担当理事の関わりがあった。

(6) 研修

- ① 法人内研修 9/10、9/13、2/20
- ② 旭区自立支援協議会研修 4/28、7/11、2/20
- ③ 市精連研修 4/28、6/3、8/5、2/21、3/12、3/13、3/19、3/27
- ④ ウィリング横浜研修他 9/29、11/25、12/10、12/11、12/20

【日時】	通年
【場所】	横浜市旭区川井宿2-38
【従事者人員】	常勤1人、非常勤5人、アルバイト5人
【受益対象者】	入居者6人 精神障害者
【支出額】	16,762,591円

2-2)社会参加と地域交流に関する事業

2-2-1)リサイクル活動

【内容】前年度同様セールは行えず。クリスマスフェアを控えて、木楽舎スタッフの了解を得てから「冬物献品」を受付しフェアに参加。お店番も担った。売上¥30,184

【日時】 通年

【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目ほか
【従事者人員】 2人
【受益対象者】 地域の市民
【支出額】 36,000円

2-2-2)文化活動

【内容】

(1) 絵手紙

7月より再開。少人数を心がけ、再会を喜びあった。カレンダーづくり・年賀状など例年に戻っての活動(7回)。木々の会情報交換の場である。

(2) 手づくりの会

年末のクリスマスフェアに向け干支づくりを2回集まって作製。お店番も担った。売上35,750円。

(3) 展示

- ・「ゆいまーる」で開催された個人の作品展に協力したり、クリスマスフェア搬入・搬出を担った。
- ・各地活で「わたしのむくどり」と題したイラスト・塗り絵・ちぎり絵のワークショップ開催。作品は「ゆいまーる」・むくどりの家40周年イベントに展示。参加者30名
- ・恒例の「墨あそび」を合同で行い、作品を「ゆいまーる」店内に展示。今年は参加者も多く、店内がとても華やかで、お客様の関心が高かった。参加者33名

【日時】 通年

【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目ほか

【従事者人員】 5人 担当：展示4人、墨あそび1人

【受益対象者】 地域の市民 精神障害者

【支出額】 52,971円

2-2-3)地域交流イベント

【内容】 ゆいまーる「秋の音楽会」～ハーブとマリンバのデュオ「ことこと」～

3年ぶりに開催。窓を開けて行える時期に、定員も減らし密にならないよう配慮。ティータイムの代わりに自主製品をセットにしてお土産とした。演奏者は今回も旭区文化センター・サンハートの協力を得た。

【日時】 11月1日(火) ①11:00～12:00 ②14:00～15:00

【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目

【従事者人員】 3人

【参加者】 ①18人 ②17人 地域の市民、精神障害者

【支出額】 57,364円

2-3)生活支援に関する事業

2-3-1)生活支援を考えるチーム

【内容】 2022年3月の「生活支援に関わる研修会」で出された「暮らしの支えあい」のアイデアを具体化するため7月に集まりを持った。その結果、まずは日々の暮らしのことなどをゆっくり話し知り合う場を持っていくこととなった。生活支援の具体化は仕切り直して一緒に考えたい。

【日時】 7月29日、以後隔月程度開催

- 【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目、保土ヶ谷区和田町
【従事者人員】 5人
【参加者】 精神障害者、地域の市民、職員
【支出額】 0円

2-3-2) 夕食会

- 【内容】 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度も再開に向けた具体的な話には至らなかった。
【日時】 通年
【場所】 横浜市旭区近隣
【従事者人員】 1人
【受益対象者】 精神障害者
【支出額】 0円

2-4) 研修・啓発・広報に関する事業

2-4-1) 研修会

【内容・日時・場所・参加者】

(1) 映画「不安の正体」上映と意見交換会

グループホームの開設、運営を進める中で出会った映画の上映を飯田基晴監督も招いて実施した。後半の意見交換会も盛況であった。

- ・2022年9月10日(土) 14:00~16:30 ぱれっと旭多目的研修室
- ・参加者 60名(会員39名、会員外21名) 後日むくどりの家でも上映会実施(参加者9名)

(2) 第15回旭区地域生活支援フォーラム「共に創ろう『Let's たすけあい』～障害のある人もあんしんできる街づくり～」オンライン上映会 (主催:旭区地域自立支援協議会)への参加

- ・2022年12月10日(土) 13:00~15:30 木楽舎にて
- ・木々の会参加者 9名(会員8名、パートナー1名)
- ・基調講演(講師・村木厚子氏)とシンポジウム「障害のある人の地域とのつながりを考える！」

- 【従事者人員】 4人
【受益対象者】 会員、地域の精神障害者・関係者 多数
【支出額】 14,827円

2-4-2) 会報、活動広報誌の発行

【内容】

(1) 『木々の会便り』を今年度も計画通り3回発行した。

73号(7/14) 180部、74号(10/13) 180部、75号(1/5) 280部

〈共通内容:3つの事業所の近況紹介、巻頭言、インフォメーション+特集記事〉

(2) 活動のお知らせ (4/28) (6/28) (8/29) (12/23) (2/27) 各100部、(10/27) 180部

(3) ホームページ

新ホームページづくりの担当者ミーティングを5回、地活メンバーとの分科会を2回開催。作成する中で、「居場所の大切さ」、「安心できる場」というキーワードが確認された。また、新たに木々の会のマークを作成した。〈助言・制作〉を井川行正氏に依頼。

従来のホームページは各事業担当者がニュース・カレンダーを随時更新した。

(4) リーフレットを必要な修正を加えながら印刷し、活用した。

- 【日時】 通年
【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目 ほか
【従事者人員】 担当：木々の会便り9人、活動のお知らせ1名、ホームページ7人
【受益対象者】 会員、地域の精神障害者・関係者 多数
【支出額】 304,416円

2-4-3) 研究及び出版

- 【内容】『友よ、今は深く眠れ』読書会の開催（講師＝宇田達夫氏）
会員・メンバーの希望者に呼びかけて開催した。講師を交えて本についての感想や疑問を出し合い、それぞれに新たな気付きを持ち帰った。
- 【日時】 10月11日（火）
【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目
【従事者人員】 2人
【参加者】 地域の市民、精神障害者
【支出額】 10,152円

2-5) その他、この法人の目的を達成するのに必要な事業

2-5-1) パートナー活動

- 【内容】
(1) 食事提供、喫茶、手織り、畑等の活動をメンバーと協働し担うパートナーの活動が行われた。
(2) パートナーの活動を支えるため、登録、連絡調整、工賃支払等のマネジメントを行った。
(3) 「パートナーの手引き」作成を開始、その一環で12月末にアンケートを配布（60通）・回収した。
- 【日時】 通年
【場所】 横浜市旭区鶴ヶ峰2丁目 ほか
【従事者人員】 パートナー25人、担当者5人
【受益対象者】 地域の市民、精神障害者
【支出額】 パートナー工賃 313,080円

2-5-2) みんなの会

- 【内容】メンバー・パートナー・理事・職員が一堂に集まる貴重な機会として、担当者が企画を立て、3回実施した。感染状況を確認しながら、久しぶりに対面で開催することができた。対面での開催では互いの表情や生の声を確認しながらできるので、意見交換も活発におこなわれた。
- 【日時】 6月21日、10月18日、3月14日に開催
【場所】 横浜市白根地区センター
【従事者人員】 5人
【参加者】 活動に関わる精神障害者・パートナー・職員等 多数
【支出額】 11,374円

以上